

コミュニティ施設の和室に関する研究

－空間の連続性にかかわる構成要素－

日大生産工(院)○多賀谷 祐紀 日大生産工 浅野 平八

1.研究の背景と目的

コミュニティ施設は、地域活動の拠点であり自治集会やサークル活動、伝統文化の伝承の場として存在している。近年、利用者の変化、進化するニーズに答えるために、和室のようにフレキシブルで多目的な室から、機能分化した室が主体の施設計画に変化し、施設は大規模化している。

コミュニティ施設が町の広間として必要ならば、フレキシブルで多目的な室が存在する必要がある。かつてコミュニティの集会施設にある和室大広間がそのような室として利用されていたが、近年では新設された施設の延べ床面積に対する和室の面積比は低下し、フレキシブルな室も少なくなっている。近年新築される一般住宅に畳の和室が少なくなっている。しかしコミュニティ施設には、ほぼ必ず一室は和室が存在する。コミュニティ施設に一室、和室が保全され、お茶や着付けなど和室のしつらえが必要な行為を行う場が求められ、伝統文化伝承の場として存在しているところが散見される。そのような中、文部科学省による社会教育調査では、コミュニティ施設の代表例である公民館の和室に関する調査項目は無く、全国的状況を知り得ない。

そこで本稿はコミュニティ施設の和室を空間の構成要素から考察する事を目的とする。

2.研究の方法

本稿では多様な条件のコミュニティ施設の和室をみるために、政令指定都市の千葉市、中核指定都市の船橋市、町村制施行以降市町村合併を一度も行っていない習志野市、都心へのアクセスが便利で急激に人口増加した市として歴史の浅い浦安市、以上4市のコミュニティ施設82施設を対象とし調査した。調査項としては[畳の敷き方・炉及水屋の有無・室の広さ・襖

の種類及位置・床の間の有無及種類及設置数・天井仕上げの種類・続き間であるか・舞台の有無・施設に複数の和室が有るか・施設の延べ床面積及建設年]など25項目である。調査で得られたデータから主成分分析を行い各項目を調査し、その関係性を精査し考察する。

3.コミュニティ施設の和室の変遷

3.1 施設の延べ床面積に対する和室の面積比

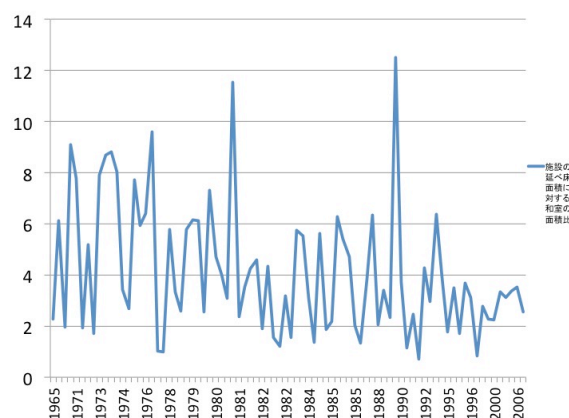


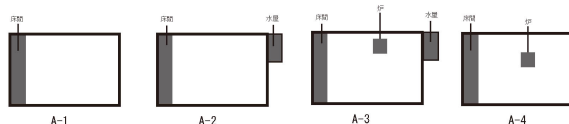
図1. 施設の延べ床面積に対する和室の面積比

図1. 施設の延べ床面積に対する和室の面積比は、施設の延べ床面積に対する和室の面積比である。82施設の面積比を時系列で並べると建設年月日によって特性はみられない。つまり和室は古い施設のものであるとはいえない。

3.2 室構成

和室の構成要素の組み合わせから平面型を以下6つに分別する。

① 複合型

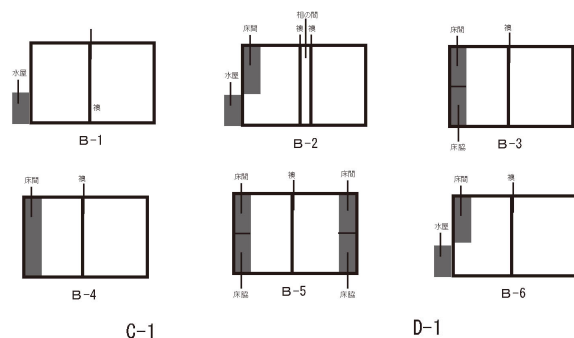


広間と茶室の機能を持ち、一室に茶室、炉、床の間がある型。

② 可変型

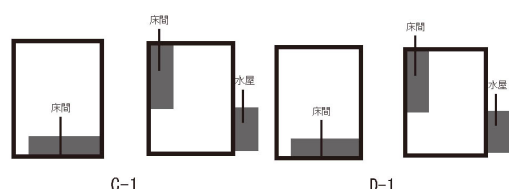
中央部に襖があり、時より2室の和室として

利用できる。しかし実態として襖を取り外し、①複合型として利用するが多い。片方の和室に茶室としてののしつらえを持ち、もう一



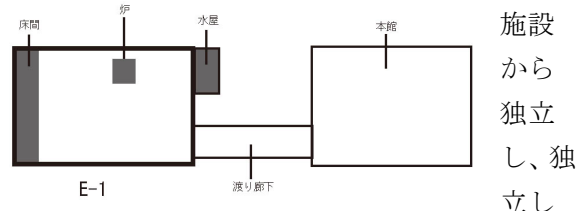
方が広間としての機能を持っていることが多い。

③ 分離型



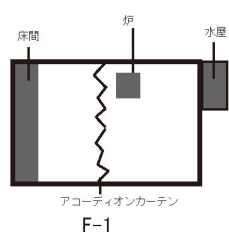
施設の中に2室和室があり、片方に茶室の可能を持つ型。D-1は階数がそれぞれ異なる和室。

④ 独立型



た和室として存在している。

⑤ 簡易可変型



3.4の簡易版で襖の代わりにアコーディオンカーテンを用入り、簡易的に2つの室に可変してりようできる。

4.構成要素ごとの特色

4.1 空間の連続性に関わる構成要素

室内空間は、水平方向を限定する床、天井。高さ方向を限定する壁で構成されている。本稿では、床を畳みの敷き方・炉の有・水屋の有無、天井を形状・造作、床の間の種類、壁を室内の

襖の種類・開口数・採光面数の要素に分解して82施設125室を対象にその出現頻度を調査する。

4.2 天井

天井の形状は平天井106室・舟底天井17室・折上げ天井2室であり3種をみる事ができた。造作は目透し天井95室・竿縁23室・格天井1室・その他4室であり6種をみる事ができた。

4.3 襖、開口数、採光数

襖の種類は、無地61室・腰模様32室・総模様17室・帯貼り10室・腰布5室であり5種をみる事ができた。開口数は、3方向が77室・2方向が42室、4方向が6室であった。採光数は、1方向113室・2方向12室であった。

4.4 床

畳の敷き方、平行(祝祭敷)55室・縦横(不幸敷)60室、一方が縦横でもう一方が平行10室であった。

5.平面型分析

習志野市:複合型が50%、可変型が50%であった。船橋市:複合型が36%、可変型が64%であった。浦安市:可変型が100%であった。千葉市:複合型が46%、可変型が42%、分離型2%、階数分離型2%、独立型5%、簡易可変型3%であった。

6.主成分分析

表1.主成分負荷量一覧

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分	第3主成分
建設年	0.270	-0.460	-0.445
延べ床面積	-0.097	0.091	-0.484
畳敷き方が平行	0.120	0.627	-0.460
畳敷き方が縦横	-0.019	-0.567	0.598
畳敷き方が縦横と平行	-0.233	-0.136	-0.323
和室帖数	-0.435	0.267	-0.556
床の間の有無	0.066	-0.590	-0.309
水屋の有無	-0.014	-0.576	-0.173
床脇の有無	-0.192	-0.101	-0.388
炉の有無	-0.098	-0.432	-0.427
舞台の有無	-0.242	0.555	0.312
続き間か	-0.736	-0.018	-0.010
独立型か	0.030	-0.197	0.114
複合型か	0.672	-0.055	0.059
分離方か	0.199	0.347	-0.216
茶室の有無	0.049	0.676	-0.056
室1採光面の数	-0.015	0.086	0.334
室2開口面の数	-0.755	0.007	0.230
室2採光面の数	-0.902	-0.025	0.057
室2開口面の数	-0.922	-0.092	-0.002
室数のカウント	-0.876	-0.070	-0.025
固有値	4.488	2.852	2.206
寄与率	21.370	13.579	10.507
累積寄与率	21.370	34.949	45.455

項目は表1のとおりとなっており第三主成分まで採用しは寄与率45.55%となった。第一主成分は固有値が4.48%、寄与率21.37%であり和室の連続性を示す軸であると考えられる。第二主成分は固有値が2.85%、寄与率13.94%であり和室の単用から服用の度合いを示す軸と考えられる。第三主成分は固有値が2.11%、寄与率8.48%であり、和室造作の複雑さを示す軸と考えられる。ここで得られた3軸に主成分得点をプロットする。図2. 主成分得点散布図は横軸に第一主成分の軸、に第二主成分の軸を取った。横軸の主成分負荷量をみると和室の平面型に関する成分が高く示されている。縦軸の主成分負荷量をみると、和室の帖数と茶室の有無の成分が高く示されている。主成分得点を用いて

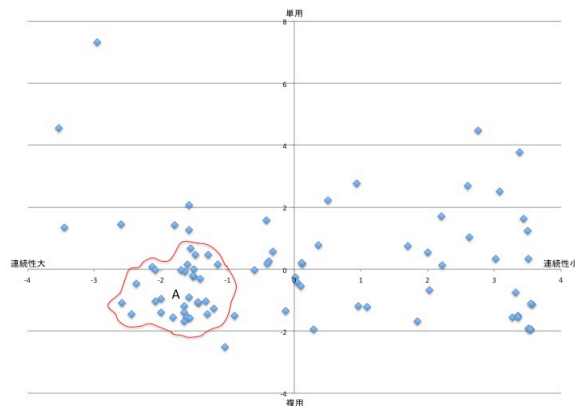


図2. 第一・第二主成分得点 散布図

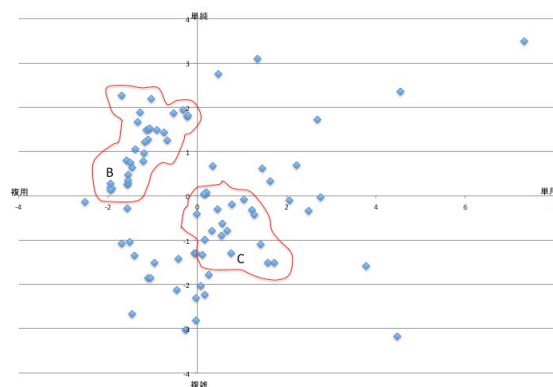


図3. 第二・第三主成分得点 散布図

散布図を作成してみると、Aのグループを確認できた。続き間であり、水屋・茶室・炉・床の間等の茶室としてのしつらえがそろっている。横軸の第一主成分が和室の連続性を示し、縦軸の第二主成分が和室の単用と複用の度合いを示す軸である事が確認できた。同時にAグループでは、畳の敷き方が縦横・天井の造作が目透

視天井・形状が平天井・障子が荒組格子である事がわかった。図3. 第二主成分と第三主

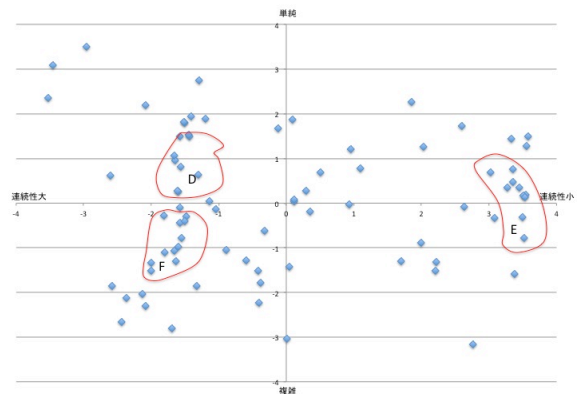


図4. 第一・第三主成分得点 散布図

成分拡散図では、横軸に第二主成分の軸、縦軸に第三主成分の軸を取った。横軸の主成分負荷量をみると、畳の敷き方と和室の広さに関する成分を強く示している。Bグループでは、続き間の和室が多く、天井の造作や床の間の種類に特殊種が多く混ざっていた。比べてCグループでは一般的な天井の造作、床の間の種類で構成されており第三主成分の縦軸は和室しつらえの少数例か多数例かを示す軸である事が確認できた。同時にBグループの施設は襖種類が腰模様、天井造作が目透し天井である事がわかった。図4. 第一主成分と第三主成分得点散布図は縦軸に第一主成分の和室の連続性を示す軸を、第二主成分の縦軸に室の単用途と複用どの度合いを示す軸をとった。Dグループ、Fグループの施設は続き間でありEグループの施設は、複合型の和室であり横軸にとった第一主成分の軸は和室の連続性を表す軸である事が分かった。又グループDは和室の造作が少数例で構成されている傾向があり、グループFは和室の造作が多数例で構成されており一般的な和室群である事がわかった。同時に縦軸の第三主成分軸は和室を構成する項目が少数例で構成されているか、多数例で構成されているかという軸である事がわかった。

7. 考察

7.1 和室の動向

千葉市、浦安市、習志野市、船橋市以上4市のコミュニティ施設では、図1. 施設の延べ床面積に対する和室の面積比でみられる通り年代別

に和室の比率変化をみる事はできなかった。市毎別での分析では、千葉市と習志野と船橋市が複合型と可変型がほぼ同等で千葉市と船橋市と習志野市を比較すると市の施設整備において和室に関しては差異はない。浦安市は可変型が100%であった。浦安市に関しては、1981年に浦安市が誕生してから施設整備が急速に進められ、画一的なパターンで進行したためと考えられる。

また近年建設される和室をみると施設から出た独立型(白井公民館など)や施設の中で和室の多機能性を持った室(おゆみ野台公民館など)が増えたためと考えられる。

7.2 和室のしつらえ方

7.2.1 床の間・床脇・障子・天井形状・天井造作

コミュニティ施設の和室のしつらえを構成する要素の一部の床の間・床脇・障子・天井形状・天井造作の頻度みる。床の間は室床、床脇は無、障子は荒組障子、天井形状は平天井、天井造作は目透視天井である和室が多数量であり、広さ以外はごく一般的な住宅の和室とほぼ変わらないと考えられる。

床脇があると床の間は室床(むろどこ)か蹴込み床もしくは踏み込み床である。障子は荒組が多い。床脇がある例は少数であり室床は一般的な床の間である。多数例のコミュニティ施設の和室のしつらえは一般住宅と変わらない事が分かる。

8.結論

本稿で得られた知見をまとめると以下の通りである。

1. コミュニティ施設の和室は、茶室として単一の機能を持つものと前者の機能も持ちながら広間として多機能な和室と、二極化して存在しているつまり和室の機能に茶道が不可欠となっていることがわかった。
2. 床の間においては書院形式の簡略化している。
3. 天井の形状は平天井で造作方法は目透し天井が大多数であった。
4. 障子は荒組障子をもっとも多く、次に横組障

子であった。2種で全体の多数量を占めている。

5. コミュニティ施設の和室のしつらえは広さと水屋の有無を除けば、一般的な住宅と変わらないといえる。

6. 平面型に年代別の変化はみられない。

7. 市行政ごとの和室のパターンは作られていない、しかし造作やしつらえにおいては一定の範囲内でデザインされている。

8. 和室にあつては各事例ごとに設計者の意図でデザインされている事が多くかった。

「注釈」

- ※ 1. 社団法人全国公民館連合会著： 全国公民館名鑑
- ※ 2. 澤井聖一著：新・和風デザイン図鑑ハンドブック
- ※ 3. 山方三郎著：和室造作集成

「参考文献」

- 1) 日本公民館学会編：公民館のデザイン エイデル研究所
- 2) 永田靖、棟近雅彦著：多変量解析法入門 サイエンス社
- 3) 赤池弘次、北川源四郎著：時系列解析の実際1 朝倉書店
- 4) 日本公民館学会編：公民館・コミュニティ施設ハンドブック 株式会社エイデル研究所 2006. 3. 3
- 5) 浅野平八著：地域集会施設の計画と設計 理工学社
- 6) 勝又啓太、「公民館の単位空間における占用・共用・単用・複用に関する研究」日本建築学会地域施設計画論文集, VOL28, (2010), pp. 91-94
- 7) 巢木大輔,「コミュニティ施設における調理室の多目的利用に関する研究」日本建築学会大会学術講演概要集 No. 5159, (2010), pp363-364,